


4 モップ


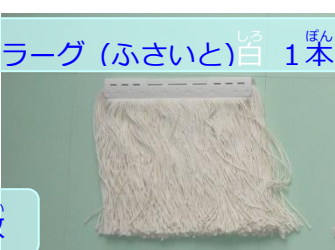


(1) 手順

<p>手順①：資機材準備</p>	 <p>検定はP タイルやビニールシートの床に机を置いて行います。</p>
<p>手順②：ラグ(ふさいと)とハンドルをセットする</p>	
<p>手順③：ラグ(ふさいと)を絞る</p>	
<p>手順④：モップで床を拭き上げる</p>	
<p>手順⑤：点検</p>	
<p>手順⑥：報告</p>	

(2) モップの約束



<p>約束①：拭いた後は歩かない。</p>
<p>約束②：壁や机の足などにモップのラグ(ふさいと)をつけない。</p>

(3) 用意するもの

<p>ハンドル(柄) 1本</p>	<p>ラグ(ふさいと)白 1本</p>	<p>よこぎ 横木(青)</p>	<p>よこぎ 横木(赤)</p>
			
<p>作業表示板 1枚</p>			

モップの検定ではワンタッチモップを使用します。ラグ(ふさいと)はタオルと同じように使用する場所や用途によって色分けをして使用します。上の写真のようにふさいとのプラスチックの部分(横木・げた)が赤いものはトイレ用、青いものはワックス用、白いものはその他という分け方が一般的です。本検定では横木が白いラグ(ふさいと)を選ぶようにしましょう。作業表示板は、お客様に清掃中であることの注意を促す上でとても大切なものですので、忘れずに準備しましょう。

(4) 作業の流れ

<p>手順①：資機材準備</p>	<p>左の写真の中にあるものから、必要な資機材を選びます。ラグを絞るためのスクイーズバケツやモップリンガー、バケツには、始めから水が入っています。作業表示板は、最初にコート外側の出入口の横に置きます。</p>	 <p>出入口をふさがないように置きましょう。</p>
		

手順②：ラグ（ふさいと）とハンドルをセットする



ハンドルのピンチを開きラグの横木の溝に合わせてセットします。姿勢は写真のように片膝を着き、ハンドルを肩にかつぐか床に寝かして行います。どちらの姿勢も、周囲のお客様に迷惑をかけることが目的です。

手順③：ラグ（ふさいと）を絞る



手しぼり



スクイザー



モップリンガー



目の高さ

ラグの絞りは、手で絞る方法やスクイザーバケツを使用する方法など何通りかあります。どの方法で絞っても良いですが、しっかり絞れているかどうかよく確認しましょう。手絞りの場合はハンドルにセットする前に絞りましょう(実際の絞りは14・15ページを参照)。絞り終わったら目の高さになるようにハンドルの長さを調節します。

手順④：モップで床を拭き上げる

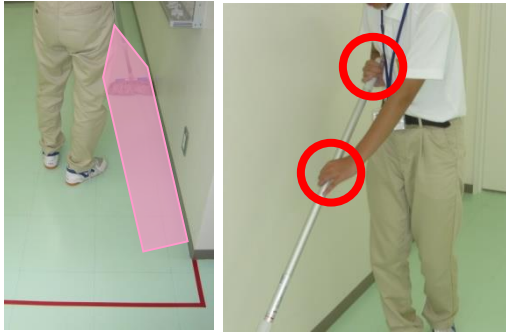
床を拭いていく手順は、①縁どり(角・直線)、②机の足回り、③机の下・机の周囲、④部屋の中央、⑤出入口の順になります。それぞれの手順で、姿勢や注意するポイントなどが違ってきますので、一つずつ順に確認していきましょう。

縁どり(角)



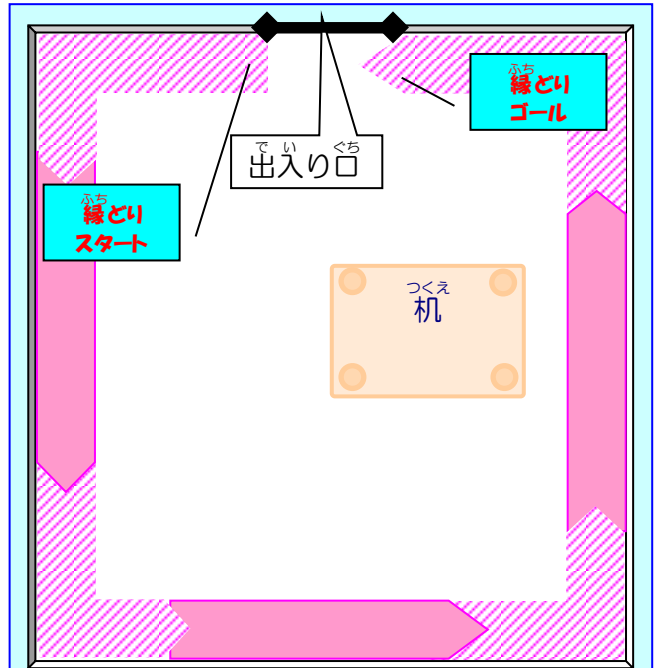
角を拭くときはラグを手で持って拭きます。これは壁にラグをつけないためです。進行方向の足(この場合左足)を立て、同じく進行方向の肩にハンドルをかつぎます。反対の足(この場合右膝)を床につき、右手でラグの右端をしっかりと押さええます。このとき、中指でラグの一番端が隠れるようにします。中指を、壁際をなぞるように先行させていき、角まで来たら向きを変え、壁に沿って進みます。手順では、コートに入り、すぐ右側の角から拭き始めますが、入口から角までの短い直線は、手で一気に拭いてしまいます。拭き終わりの場所は角から1mくらい進んだ辺りです。

縁どり(直線)



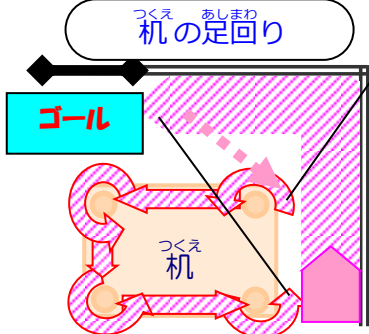
壁際を真っすぐ拭いていくときには、モップのハンドルを右肩の前で構え、壁にラグをつけないように注意しながら押して拭いていきます。

この場合のハンドルの持ち方は、右手が上で左手が下です。安全のため、自在ぼうきと同様に、ハンドルの先端には親指をかけます。左手は順手で持ちます。拭いた後を歩かないように気を付けましょう。



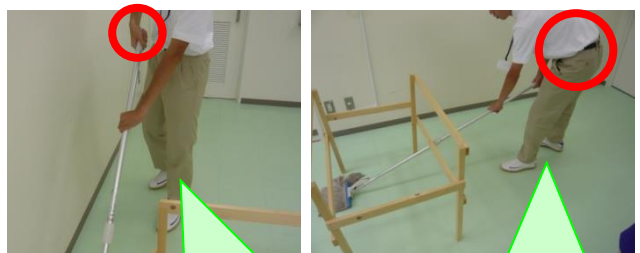
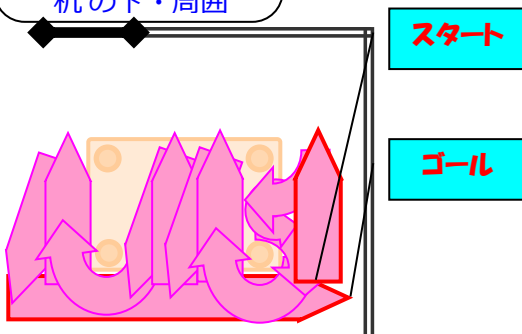
の部分(斜線)は手でラグを持って拭くところ、の部分(平色)は立ったまま拭くところです。図のように部屋を一周するようにして縁どりをを行います。

つくえ机の足回り



縁どりが終わったら立ち上がって机の前まで行き、左膝をつき、右膝を立て、右肩にハンドルをかついで左手でラグを持ち、机の足にラグが一切触れないように拭いていきます。手の大きい人はラグを全部まとめて持っても良いですが、手の小さい人はラグを分けて持つと良いでしょう。

つくえ机の下・周囲

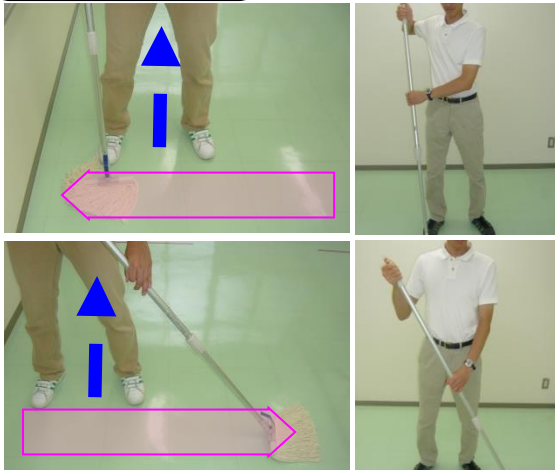


みぎて 右手がポイント

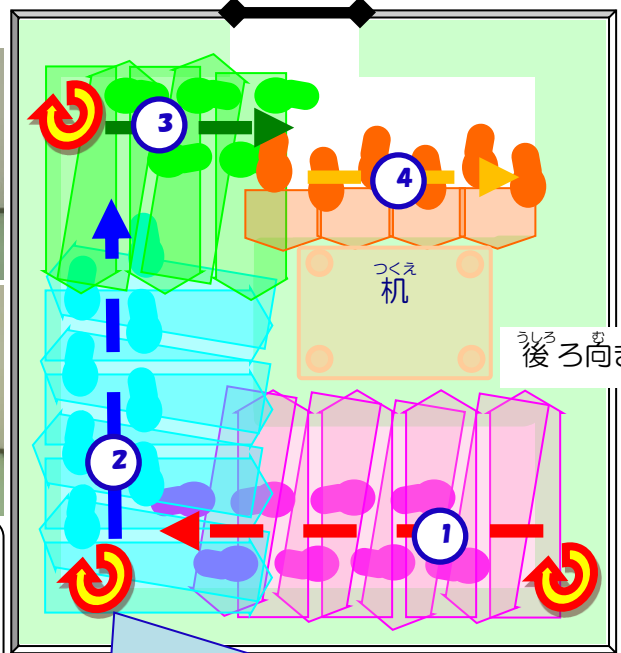
つくえ机の下は姿勢を低く

机の足回りが終わったら立ち上がり、写真のように持ち方を変え、机にハンドルやラグを当てないように注意しながら、机の下を膝を曲げて拭いていきます。

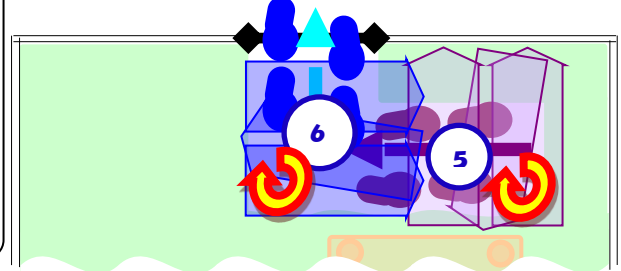
部屋の中央



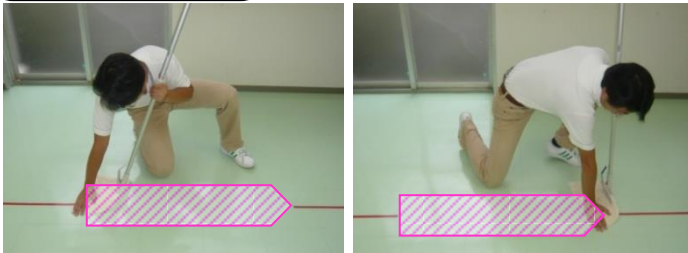
机の下が終わったら、向きを変え、広いところを拭いていきます。モップを写真のように横に動かしながら、自分は①②③の順に後ろ向きで進みます。この時、横木が浮かないように注意します。壁が後ろに近付いたらまた向きを変え、同じように拭いていきます。④のところは、前のページの「机の下の拭き方」と同じように持ち方を変えて姿勢を低くして拭きます。⑤でまた向きを変え、⑥で後ろ向きに進みながら部屋の外に出ます。



ラゲは、体の向きを変えるごとに(②のマーク)足元でひっくり返します。



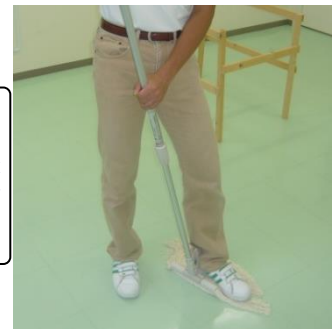
出入口



最後に出入口の部分、ラゲを手で持って拭きます。このときは左右はどちらでもかまいませんが、右手でラゲを持つ場合は右から左へ拭きましょう。

手順⑤：点検

拭き終わったら、汚れが残っていないか点検しましょう。普通に拭いただけでは落ちなかった汚れも、ラゲを足で踏んで力強くこすると落ちる場合があります。



手順⑥：報告

点検が終わったら、ラゲをハンドルから外し、ハンドル・ラゲ・作業表示板を元の位置に戻します。片付けをした後、姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。